



シンポジウム

東日本大震災の記録と その活用

ー311まるごとアーカイブスの目指すもの

会場：遠野市市民センター

日時：平成23年(2011年)10月8日
(土)13時より18時

311まるごとアーカイブスWEBサイト <http://311archives.jp/>

シンポジウムの目的

3月11日に発生した東日本大震災は、多くの人命を奪い、地域社会に壊滅的な被害を与えました。この経験や教訓を人類共通の資産として千年先の後世に伝承し、安全な社会を構築することが現世代の責任です。今回のシンポジウムでは、被災地の失われた「過去」の記憶をデジタルで再生し、被災した「現在」と復興に向けた「未来」の映像や資料をデジタルで記録し、まるごとアーカイブすることを目的とした「311まるごとアーカイブス」のデータ収集と保存の取り組みを紹介し、アーカイブされたデータの活用について議論します。

そのうえで、今回の震災体験を人類共通の資産として世界に発信することについて、アンドリュー・ゴードンハーバード大学ライシャワー日本研究所所長を交えて議論します。

311まるごとアーカイブス・シンポジウム

東日本大震災の記録とその活用

- **第1部 アーカイブスの「データを集める」**
13時10分より14時25分
- **第2部 アーカイブスの「データを活用する」**
14時35分より16時05分
- **第3部 アーカイブスの「データを世界に発信する」**
16時20分より17時50分

シンポジウム【第1部】

アーカイブスの【データを集める】13:10～14:25

- <311まるごとアーカイブス 活動の目的と概況>
長坂俊成(独立行政法人防災科学技術研究所、311まるごとアーカイブス 世話人)
- 1. 大船渡、陸前高田の若者を中心とした画像、映像、インタビュー等のアーカイブ
- 2. 釜石市のアーカイブの取り組み
- 3. 気仙沼の映像、画像のアーカイブと展示
- 4. 災害体験のオーラルヒストリー(被災体験のメッセージと避難行動の聞き取り)の収集
- 5. 宮城県、岩手県の被災自治体の市民記録による災害映像、画像の収集
- 6. 大船渡の中学生、シニアを対象とした映像作成ワークショップを通じたコミュニティの復興
- 7. 遠野市等三陸地域地震災害後方支援活動のアーカイブ
- 8. 被災地の写真映像記録ボランティアの活動
- 9. 被災地の災害FM放送のアーカイブ
- 10. 被災地の災害ボランティア活動と体験談のアーカイブ
- 11. 地場産業の復興アーカイブと民間コマースサイトとの連携
- 12. 測量車両による360度映像と測量のアーカイブ
- 13. 復興情報杭とスマートフォン等による復興過程の定点撮影とフィールドミュージアム構想

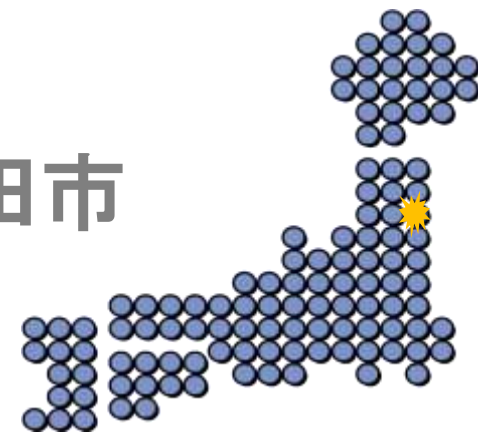


KOM

ー 気仙を大いに盛り上げたい！ー

プロジェクト

活動地域：大船渡市・陸前高田市



KOMの大船渡での活動webサイト <http://311archives.jp/hp/ofunato/kom>

KOMの陸前高田市での活動webサイト <http://311archives.jp/hp/rikuzentakata/kom>



現在の活動状況

<活動体制>

- インタビュー・映像取材活動(陸前高田市、大船渡市出身の4名、寄付金にて1年間雇用、地元NPO、行政、産業界、学校、地域コミュニティとの協働)
- 流された写真・アルバム等の返却(陸前高田市の緊急雇用による臨時スタッフ2名、NPO等被災地外のボランティアスタッフ、民間事業者との協働)

<活動状況>

- I 復旧・復興過程の取材と編集、ホームページ等への公開(写真・ビデオ・音声インタビュー)
 - 被災者の避難生活及び復興過程(避難所から仮設住宅、グループホーム、学校、地域コミュニティの日常や活動、行事等)
 - 災害ボランティアの活動、ボランティア体験談
 - 地場産業、商店等の復旧・営業再開の取り組み
 - 被災体験、避難行動、後世へのメッセージ等の音声インタビューとテキスト化
- II 津波で流された写真やアルバム等の保存・洗浄・返却
- III 被災前のまちなみ、風景、文化財、伝統行事、イベント等の映像収集とデジタル化
- IV 住民(シニアや児童・生徒・学生)による映像記録支援



活動の様子





主な成果・コンテンツ

＜収集したコンテンツ＞

- 地域の復興の取り組みを写真、ビデオ、インタビューにて取材し、eコミュニティ・プラットフォームにて順次公開
- 事業者や商店等の営業再開の取り組みをマップにて公開（一部準備中）
- 地場産品等のeコマース情報を発信（準備中）



課題と今後の展開

<課題>

- 行政や地域コミュニティの復興まちづくりの計画や事業推進を巡る会議や意見交換会の記録
- 仮設住宅や仮設グループホーム、仮設商店街等の長期的な継続取材
- 避難行動や被災体験、後世へのメッセージのより多くのインタビューの収集

<今後の展開>

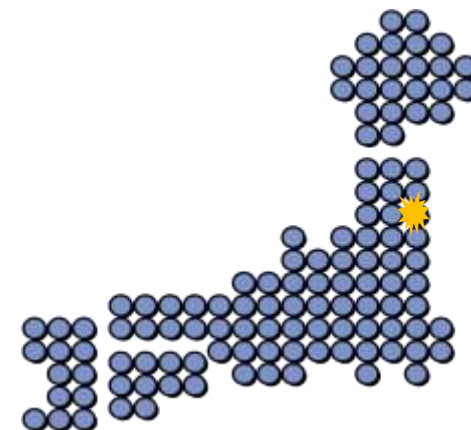
- 地域コミュニティとの連携・協働を強化し、多様な復興活動を収集する
- 仮設住宅等被災地のコミュニティへの情報提供と広報活動支援



釜石市のアーカイブの取り組み アイアン・ハート

—様々な教訓・写真・映像・想いの収集と整理、検証—

活動地域：釜石市





現在の活動状況

<活動体制>

- 釜石市在住の4人(常勤。釜石市防災課の臨時緊急雇用)

<活動状況>

- I 復旧・復興過程の取材と編集、ホームページ等への公開(写真・ビデオ・音声インタビュー)
- 復旧・復興過程のまちなみ、風景、イベント等
- 地場産業、商店等の復旧・営業再開の取り組み
- II 被災前のまちなみ、風景、文化財、伝統行事、イベント等の映像収集とデジタル化



活動の様子





活動の様子





主な成果・コンテンツ

＜収集したコンテンツ＞

- 地域の復興の取り組みを写真、ビデオ、インタビューにて取材し、eコミュニティ・プラットフォームにて順次公開
- 事業者や商店等の営業再開の取り組みをマップにて公開（準備でき次第順次）
- Youtube、ニコニコ動画等のサイトにアップされている動画の収集等



課題と今後の展開

<課題>

- 行政や地域コミュニティの復興まちづくりの計画や事業推進を巡る会議や意見交換会の記録
- 仮設住宅や仮設グループホーム、仮設商店街等の長期的な継続取材
- 避難行動や被災体験、後世へのメッセージのより多くのインタビューの収集

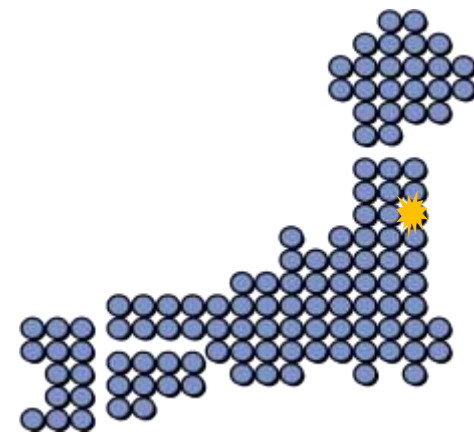
<今後の展開>

- 「記録」と「記憶」—様々な教訓・写真・映像・想いの収集と整理、検証
- 定点撮影・復興杭(市防災課による地点のピックアップ)
- 地域コミュニティとの連携・協働を強化し、多様な復興活動を収集する
- 仮設住宅等被災地のコミュニティへの情報提供と広報活動支援



気仙沼の映像、画像の アーカイブと展示

活動地域：気仙沼市





現在の活動状況

<活動体制>

- 気仙沼市出身2名(常勤)
- 気仙沼市危機管理課との全面的な協力(事務所・各種調整)

<活動状況>

- 地元写真家集団「鼎」と連携した定点観測(市内100ポイント)
- 神戸大学・横浜市立大学「記憶の街」ワークショップ(模型作りワークショップ)との連携(オーラルヒストリーの一環)
- 提供いただいた写真をつかった「写真展」の開催(向洋高校生徒会・写真部／江戸川区等)
- ブログによる発信・周知・記録
- NPO・ボランティアとのネットワーク構築(情報交換、協働事業の検討)



活動の様子



写真展の様子



定点観測結果(eコミマップ)



記憶の街ワークショップ
模型づくりワークショップ



主な成果・コンテンツ

＜収集したコンテンツ＞

- ブログにて、活動状況等を発信中
- 街の復興過程の記録(大島フェリー航路・港町の定点観測等)→eコミマップでの発信(一部準備中)
- 避難行動調査(プレ調査)の実施、聞き取り結果のとりまとめ
- 収集した写真を活用した写真展を通じた市民・全国各地への情報発信



課題と今後の展開

<課題>

- ネットワーク; 常勤スタッフだけでは十分に動けないため、地元組織、市外から支援に入っているNPO・NGO等との連携したプロジェクトの展開が必要。(気仙沼市で支援しているNPO・NGOで定期的な情報交換を行っている)

<今後の展開>

- 地域の実情を多角的に記録していくとともに、市外県外海外への積極的な情報発信を目指す。

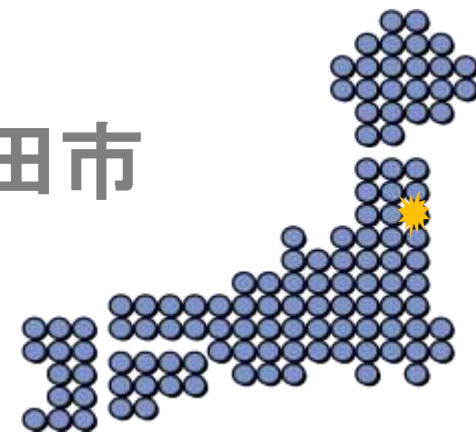


災害体験のオーラル・ヒストリー

ー 被災体験からのメッセージと避難行動の聞き取り ー

の収集

活動地域：大船渡市・陸前高田市





取り組みの目的

<目的>

- 津波被災者、避難者の体験を収集・整理し、後世に役立つメッセージとしてアーカイブする

<活動状況> 第1期(9月末まで)

- 大船渡10地区を対象に、50名のインタビューを実施
- 体験者の声、未来の被災者に残したいメッセージを集約してWEBから発信する
- インタビューするためのポイントを明記したマニュアルを用意
- 個人情報の取扱い等に配慮し、書面で確認する



イロイロなゲーム・ダンス・クイズ	
①、開演時刻	日 時 分 月 年
②、演題場所	
③、参加人数 （団体名） 品名・数量・年齢	特 定 数 名
④、参加料 （参加費） 謝金・謝礼	金額 円 角 分
⑤、開催の 趣意の趣	
⑥、開催場所 （施設名称）	
⑦、開催日	
⑧、催し物提供	
⑨、開催 （氏名）	
⑩、抽籤の 結果の抽籤	☐ 抽籤で決定 ☐ 抽籤で決定しない

メッセージのサンプル

大船渡市赤崎町の女性65歳

- 今度被災にあってね、本当に恐ろしかったです。
- 孫たちの手を引いて高台に逃げました。孫たちにもこれが津波なんだ、すごくおっかないんだと、忘れないで見て置けといったら、孫たちも身を乗り出して見ました。孫は6歳と4歳です。
- いち早く避難することが大事だと思います。いまは貴重品だとか、身の回りの物をそろえて、即避難ということに備えています。
- 千年後は今とは時代が変わっていると思います。我々はもうこの世にはいないけれども、津波の大きさとか威力は変わっていないでしょうから、常に避難ということを頭において、過ごすしかないと思います。



被災者の避難行動の聞き取り

失われた地域の「過去」の記憶の再生 被災した「現在」を記録 復原に向けた「未来」を記録

※1よりさらにアーカイブス、災害情報、災害対応の記録、被災者の避難行動の聞き取り

メニュー

- シンガポール・ボランティア活動
日本赤十字社の協賛による活動
- 「3.11まるごとアーカイブス」とは？
- 記憶と想いの再生
- 震災から被災地の状況や被害とセンター化
- 復興支援について詳しく学ぶ環境意識とボランティア
- 参加者募集！「想いの城」定期活動
- 活動報告、災害防止の記録、写真
- 東京地震や避難行動の可視化とその意義
- 被災地の現状と公開
- 最新情報！一瞬「デモサイト」
- 行政の防災対策と本協会の役割と連携
- コミュニティ放送、コミュニティの被災地ネットワーク
- 被災地の避難行動の聞き取り
- 避難からの3ヵ月経過後に実施
- ボランティア経験者の「データ提供」

災害現象・災害対応の記録 **報告**

— 被災者の避難行動の聞き取り —

活動紹介

海軍された一歩避難所行や緊急避難ビル等を通じて受けたる方を助ける心のケアサービスを実施しなう。被災の方々と直接、被災者自身または家族、家族、被災者避難行動など被災地復興と海のライフスタイルの費用等によって、管理またはサポートを提供して記録します。さらに、録音された内容を共有いたします。

その際、避難行動の内容にとらわれず、被災者が200時間、半年間の時間を自由に投入いただけます。また、家庭で被災者自身と共に活動して被災地復興に貢献する可能性のある方々に任意に参加セッションをお試しいたください。

その際にも詳細な記録記録等々も記録システムで保存して記録します。

連絡の選択と予定

大館市街て50名の方々からメッセージをいただきました

大館市の各地にて、**3.11**被災者アクト24活動の方々が市民向けにインタビューを行い、被災者から全国各地の方に伝えたメッセージをまとめたものです。検索は**3.11**（3.11）キーワード検索とまとめています。

[コメント / コメントの書き込み](#)

検索・協力のお問い合わせ

- 地図、写真などの提供をお願いします
- 寄付のお問い合わせ
- ボランティアの募集
- ボランティア体験活動
- お問い合わせ：データ提供・寄付等
- 英語コンテンツ
- 関連サイト

日本赤十字社協賛のボランティア活動募集中です





課題と今後の展開

<課題>

- 時間の関係などから、仮設住宅などに生活する高齢者に対する聞き取りが中心となっていて、壮年層、若年層への聞き取りが少ない。多世代のさまざまなメッセージが必要。
- 時間経過とともにメッセージが変化する可能性がある。これを追跡して記録することも大事。

<今後の展開>

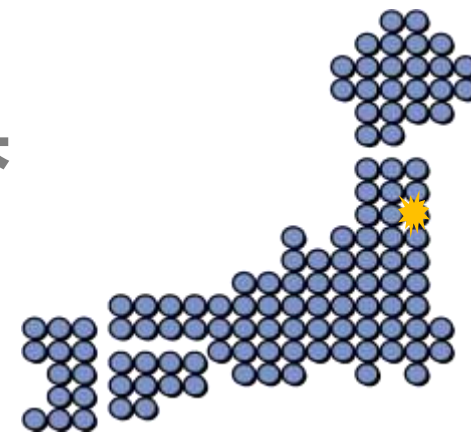
- 地域である程度まとまった集団へのグループインタビューなどを行いたい。
- 仮設住宅にアンケート箱を設置し、被災体験者の声を気軽に寄せてもらおう環境を整備する。→夢ネットさんと協働で作業中



3.11まるごとアーカイブス・シンポジウム 東日本大震災の記録とその活用

被災自治体の市民記録による 災害映像、画像の収集

活動地域：岩手県・宮城県
【被災地全域】





取り組みの目的

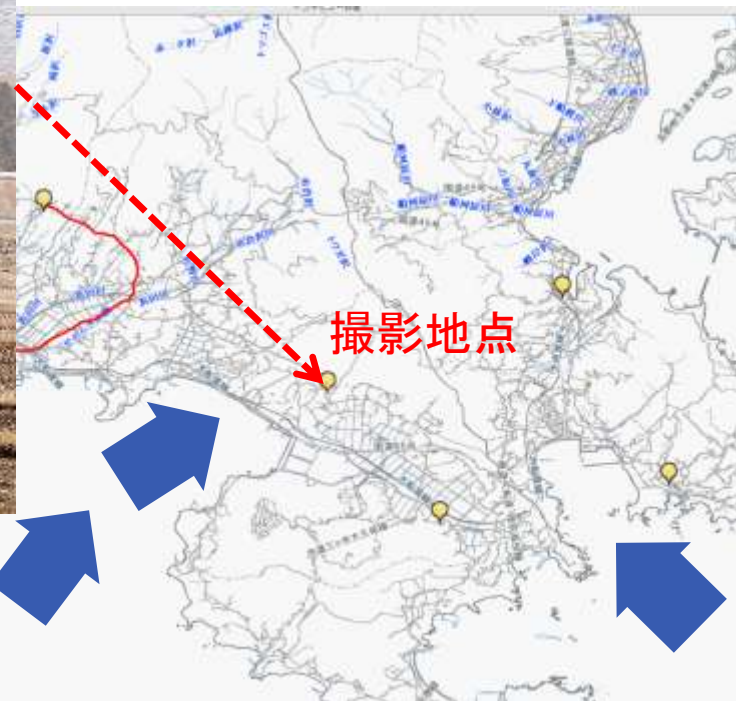
- 被災地の市民に呼びかけて、災害直後の様子や、津波の画像、避難所の様子などがわかる画像、映像(動画)などを提供していただく。
- 撮影場所が特定できるものは、eコミマップを使い地図と連動させて記録を保存する。
- これまで26名の方々より、計約3,200枚の画像(静止画)と75本の動画をご提供いただいた。
- 併せて県および沿岸市町村より約1万5千枚の画像(静止画)と10本の動画をご提供いただいている。



活動の様子(ご提供いただいた画像の例)



陸前高田市小友町字西下
Y氏提供による津波画像(左)と
eコミマップ(下)



画面左手が広田湾、右手が大野湾側で、双方からの津波が浸入し、小友地区は広田半島の付け根の部分で分断された。

津波前後の海岸線の変化(陸前高田市古谷地区Yさん提供)



陸前高田市気仙町古谷集落の津波避難





津波動画の例



大船渡市の齊藤賢治さん撮影動画



津波動画の例



宮古市役所提供の津波動画



課題と今後の展開

- 市町村提供画像と住民提供画像とをリンクして、災害時の状況が空間的、時間的にわかるような形に表現する方法を構築する
- 被災前の地域の写真記録と比較することによって、失われたものを明確にする





大船渡市在住の中学生および 大船渡市・陸前高田市民対象の ワークショップから —いま、あなたが伝えたいことは？—

活動地域：大船渡市・陸前高田市





当時の活動状況

<体制>

- NTTドコモ・社会モバイル研究所、防災科学技術研究所、大船渡市教育委員会、NPO法人夢ネット大船渡、KOM(気仙を大いに盛り上げたい・プロジェクト)、協力;大船渡市立日頃市中学校、東京工業大学

<活動状況>

- 8月2～4日、9～11日、23～25日に、大船渡市日頃市中学校、末崎地区公民館において、中学生・シニア向けのワークショップを開催。
- 合計中学生7名、シニア24名が参加し、シナリオ作成～撮影～編集作業～上映会までを開催した。



活動の様子



中学生対象、夏休み3日間映画監督体験
3分間の短編映画を作ってみませんか？
 シナリオ作りから撮影～編集～公開まで



日時 8/9(火)～8/11(木) 岩手県大船渡市立
 場所 日頃市中学校・多目的ホール

- 開催時間は全日とも13:00～16:00。
- 中学生対象。一・二日間だけでも参加可能。
- 前日までに参加受付いただいた希望者にお弁当を準備します（昼食12:00～）。
- バス送迎有り（盛沢、大船渡中学校、大船渡第一中学校、赤崎中学校 発着）
- 参加費無料。のみもの、おやつ付き。

主催：防災科学技術研究所
 NTTドコモ モバイル社会研究所
 後援：大船渡市教育委員会（申請中）
 協力：東京工業大学 大学院 社会理工学研究科

三日間のスケジュール：
 [初日] 機器利用説明、映像撮影。
 [二日目] 映像撮影。
 [最終日] 編集、上映会。

申し込み方法
 以下に電話でお申し込み下さい。また当日、添付の
 申込書を持参して下さい。



活動の様子





主な成果・コンテンツ

＜収集したコンテンツ＞

□ 合計21作品を制作(順次公開予定)

□ タイトル:

心は一つ 宝と生きる大船渡／大船渡市PR／今後の居住地への不安について／被災地の診療所／岩手県立高田高校の現在／3.11その時から／頑張れ岩手！！「未来に向かってはばたく」／ふるさと探検／大船渡市立日頃市中学校紹介／日頃市探索／復興への光／大船渡の自然／え！ここまで来たの！？／**はじめてのインタビュー**／悠々～震災五ヶ月後の末崎町の現状～／ようこそ碁石へ／3・11わんこ体験記／生と死の狭間 -体験談-／旅は道連れ／復興に向けて ～様々な支援の形～／大船渡市 ～自然とともに～／**災害を受けとめて**

作品例



作品名: はじめてのインタビュー
撮影: 岩手県大船渡市
8月9日に撮影
被災地にボランティアとして来ている
外国人の方に、小学生が初めてのイ
ンタビューをする。



作品名: 災害を受け止めて
撮影: 岩手県大船渡市、陸前高田市
8月23日～25日に撮影
自宅が半壊してしまったが、災害を
自然の営みとして受け止めて、前向
きに生きていきたい。



課題と今後の展開

<課題>

- 気軽に撮って公開するには？
肖像権・著作権の簡単な説明・許可を得る方法は？
- 子どもたちに「災害」を意識しないで(いままた大きなPTSDの波がきている)彼等がいま伝えたいことを気軽に発信してもらうには？

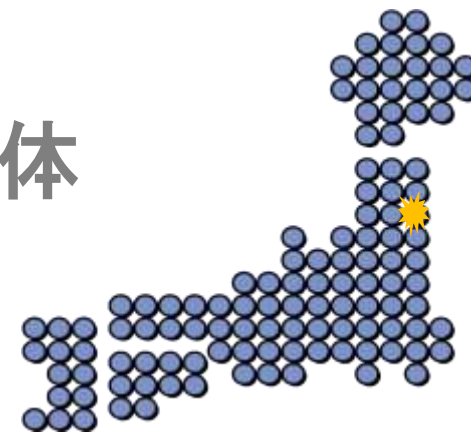
<今後の展開>

- 被災地から地域の人の手で撮った映像・メッセージをコンスタントに制作・公開・発信、それをきっかけに交流するといった地域の絆を深める仕組みの構築と場(できれば常設)の提供



行政の災害対応資料の アーカイブ — まずは、遠野市から —

活動地域：岩手県被災自治体





取り組みの目的



- 行政の災害対応記録を整理し、時間を追ってどのように事態が展開していったのかを明確にする。
- 沿岸市町村の後方支援活動拠点として大きな役割を果たした遠野市の時間経過を軸にして、被災市町村とどのように連携が取れたのか、そこにはどのような成果や課題があったのかを解明し、今後の大規模、広域災害の際の対応を考えるための基礎情報とする。

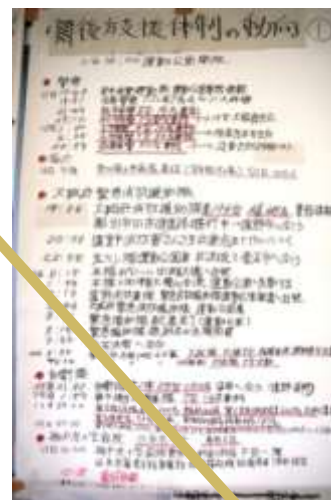


災害対応記録の収集

壁紙記録、情報受付票など
災害対応記録文書の
スキヤニングとデジタル化

行政職員の災害対応記憶
のアーカイブ

- アンケート調査
- インタビュー調査



←
壁紙記録



←
情報受付票

約2千枚

タイムライン

進野市タイムライン		進野市災害対応記録	
日	時	災害発生	対応状況
3月11日	16時	地震発生(13kg10歳)をば3路、あつち4路、みそ2路	県民センター本部
3月11日	17時		県民センター(文芸部)の職員(18:00)
3月11日	18時	津波。一部地域が18:45頃津波に見込み(18:37)	地・行・警・大・消防の各、他市の要入(一部17:50、第2機中、第3機中)(18:40)
3月11日	19時		大津波緊急消防救助隊が進野運動公園に22:30頃に入るとの進野消防からの情報(18:50)
3月11日	20時		大津波への救助活動を開始(19:45)
3月11日	21時	地・道がいずれも、津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)	進野消防署「えんち」交差点(大津波緊急消防救助隊を待ち)に付く(20:00)
3月11日	22時	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)	消防センターで東38kg救助はし、津波に入った。(20:30)
3月11日	23時	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)	おにぎり40kg救助し入る(21:00)
3月11日	0時	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)
3月11日	1時	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)
3月11日	2時	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)
3月11日	3時	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)
3月11日	4時	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)
3月11日	5時	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)
3月11日	6時	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)	津波緊急消防救助隊が津波士連隊救助へ連れて行った大津波救助隊の救助(文芸部)一人(20:00)



活動の様子

東京工業大学大学院生による
遠野市でのアーカイブ支援活動



2011年7月、東京工業大学の大学院生によるボランティア13名が遠野市を訪問し、市の災害対応記録文書のデジタル化作業を支援しました。

作業は各種文書資料のスキャニングと、そのデジタル化により、発災翌日から7月末までに至る膨大な資料を整理しました。これにより市の災害対応の大まかな時間経過（タイムライン）がわかるようになりました。



課題と今後の展開

- ◆ 市職員に対するアンケート調査の実施
- ◆ 市の幹部職員に対するインタビュー調査の実施

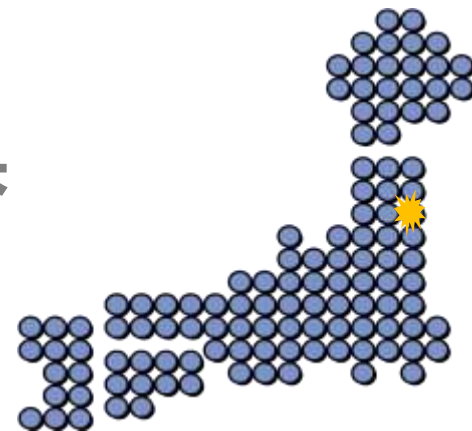
解明すべきこと

- ◆ 空間的な広域後方支援の検証
- ◆ 連携、調整機能の確認
- ◆ 大規模災害時の後方支援をスムーズに行う場合の情報の在り方



被災地の写真映像記録 ボランティア活動 — 延べ500人の協働 —

活動地域：岩手県・宮城県





取り組みの目的

<目的>

- 被災地の被害の全体像を把握し、復興に向けての変化を記録すること。

<活動状況>

- 全国からのべ約500名におよぶ記録ボランティアの協力を得て、デジタルカメラで被災地のまちなみや避難場所、重要公共施設、鉄道や道路、橋梁、港湾、堤防、文化財、生態系、復旧・復興活動等を撮影し、位置情報を付与しインターネット上の地図で公開。

記録状況



岩手県側記録状況

陸前高田市	37,006
大船渡市	4,444
釜石市	2,196
大槌町	1,385
宮古市	5,522
山田町	146
岩泉町	242

総数
67,580 枚

宮城県側記録状況

気仙沼市	2,942
南三陸町	119
女川町	1,002
石巻市	4,403
東松島市	1,555
七ヶ浜町	463
塩竈市	507
仙台市	657
名取市	2,122
岩沼市	1,093
亘理町	696
山元町	350
多賀城市	679
松島町	30



活動の様子





主な成果

＜収集した静止画・動画＞

□ 写真67,580枚、動画281本





課題と今後の展開

<課題>

- 自治体・地域の方の協力・要望に応じて、定点の見直し・追加
- 定期的な定点撮影のための撮影者の確保
- 撮影場所(GPSの位置データ等)の確実な記録方法

<今後の展開>

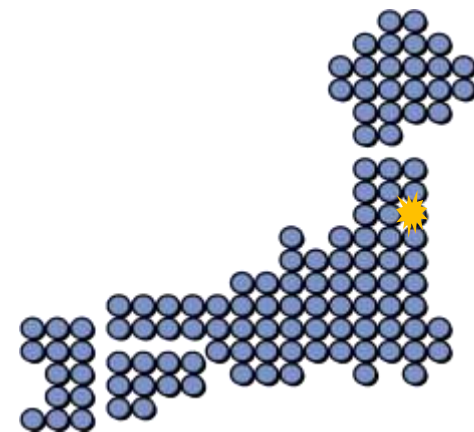
- 地域内外のボランティアによって、定期的に定点撮影を行う



被災地の災害FM放送の アーカイブ

ー コミュニティFMは何を伝えたか ー

活動地域：大船渡市他





取り組みの目的

<目的>

- コミュニティ放送局の災害放送の音声ファイルや放送用原稿等をアーカイブし、時系列に整理する。



(参考) おおふなとさいがいエフエムの活動の様子





☆おおふなとさいがいエフエムでは、放送原稿をホームページ上で公開

大船渡市 ともに創る 三陸の地に誇りを感じながら 大船渡

サイト内検索
サイト内検索

トップページ > おおふなとさいがいエフエム > おおふなとさいがいエフエム

おおふなとさいがいエフエム

おおふなとさいがいエフエム

3月31日より、生活に関連したお知らせなど、各種情報を放送しています。

名称 JOYZ22-F Mおおふなとさいがいエフエム
放送数 7日、5分または80.5メガヘルツ
月～金曜日 9:00～、12:00～、15:00～、土曜日
放送時間 9:00～
(概ね2時間枠)

過去の放送内容

放送日	放送内容
9月20日(火)	大船渡市のお知らせ(PDFファイル: 47KB) 大船渡市のお知らせ(PDFファイル: 23KB) 陸前高田市のお知らせ(PDFファイル: 20KB)
9月21日(水)	大船渡市のお知らせ(PDFファイル: 46KB) 大船渡市のお知らせ(PDFファイル: 21KB) 陸前高田市のお知らせ(PDFファイル: 24KB)
9月22日(木)	大船渡市のお知らせ(PDFファイル: 53KB) 大船渡市のお知らせ(PDFファイル: 23KB) 陸前高田市のお知らせ(PDFファイル: 22KB)
9月24日(土)	大船渡市のお知らせ(PDFファイル: 21KB) 陸前高田市のお知らせ(PDFファイル: 22KB)
9月26日(月)	大船渡市のお知らせ(PDFファイル: 52KB) 大船渡市のお知らせ(PDFファイル: 23KB) 陸前高田市のお知らせ(PDFファイル: 20KB)
9月27日(火)	大船渡市のお知らせ(PDFファイル: 56KB) 大船渡市のお知らせ(PDFファイル: 28KB) 陸前高田市のお知らせ(PDFファイル: 22KB)

PDFファイルの表示には、Adobe社のAdobe Readerが必要です。入手はこちらから

このページのお問い合わせ先

総務広聴課
電話番号: 0192-27-3111
FAX番号: 0192-26-4477
(ファックスは総務課専用)

このページの地図

・ サイトマップ ・ リンク集

大船渡市役所 〒022-8501 岩手県大船渡市通町字津野沢15 電話: 0192-27-3111
Copyright © 2011 Ofunato City. All rights reserved.

【大船渡市のお知らせ】 9月20日放送分

- 大船渡市役所からのお知らせ
現在、大船渡市赤崎町、永浜地区で通行止めとなっていた県道、大船渡線三陸線は、片側交互通行となりました。
また、大船渡市三陸町越前集の荒沢地区の県道も、片側交互通行になりました。誘導員の指示に従って通行してください。

【陸前高田市のお知らせ】 9月20日放送分

- う道路変更についてのお知らせ
三陸復興自動車道工事のため、通行止めとなっている、道橋川大隈線の大隈地区内区間ですが、9月10日(土)より、う道路が変更になります。
新しいう道路については、広がりくせんかた路時号100号でご確認ください。
詳しくは、建設課道路河川係まで、お問い合わせください。
以上、う道路変更についてのお知らせでした。
- 陸前高田市役所企画政策課から土地取引の情報提供についてのお知らせ
陸前高田市は現在、復興計画を策定しているところですが、今後復興計画を円滑に進めるために、土地の買い入れや高値での売却を防止し、適正な地価水準を確保する必要があります。不当な土地取引情報をお持ちの方は、陸前高田市役所企画政策課に連絡してください。
以上、陸前高田市役所企画政策課から土地取引の情報提供についてのお知らせでした。
- 陸前高田市役所税務課からのお知らせ
軽自動車税についてです。
8月5日に軽自動車税の納税通知書を送りましたが、当該車両がこのたびの震災で被災した軽自動車である場合には、届け出をすることにより軽自動車税が免除されますので、納税通知書と印鑑を持参のうえ、市役所税務課までお越しください。
平成23年4月1日以降に、被災車両の廃車手続きをされた方も、手続きが必要となります。被災車両の代わりに取得した軽自動車などは、手続きを行えば平成23年度から25年度までの軽自動車税が非課税となりますので、被災車両の廃車手続きの後、手続きをしてください。
以上、陸前高田市役所税務課からのお知らせでした。



課題と今後の展開

<課題>

□ 関係組織との連携

FMわいわい様、せんだいメディアテーク様、等、同様のアーカイブス作業を行っている関係組織との具体的な連携方法。

<今後の展開>

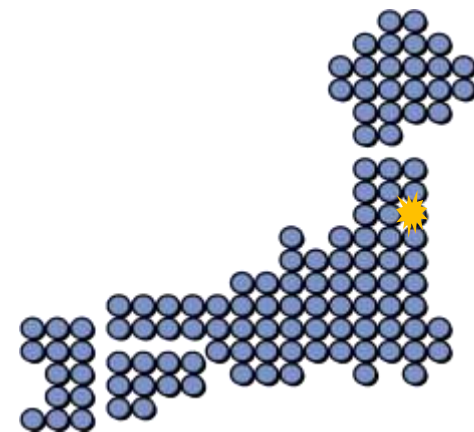
□ 音声ファイルの活用

災害放送期間が長く、音声ファイルそのままでは膨大な時間分聞かないと活用できないため、デジタル化・タイムライン形式にする必要あり。その変換・編集作業をどのように実施していき、今後に生かす形にしていく。



被災地の災害ボランティア活動と 体験談のアーカイブ

活動地域：被災地全域





取り組みの目的

<目的>

- ボランティアセンター(以下、VC)での活動内容やボランティア体験談をアーカイブし、VC運営の計画づくり、または改善に活用する。

<活動状況>

- 宮城県内各VCでの活動を記録
(ボランティアへの呼び掛けや、日々の活動、ボランティアニーズマップ等、VCでの活動がそのままアーカイブされている。)
- ボランティア体験談募集ページを作成し、ボランティアされた方を対象に体験談を投稿してもらう。



活動の様子

宮城県災害・被災地協等復興支援 ボランティアセンター

ボランティアの方へお願い・重要なお知らせ

- ① 福島市災害VCより～台風15号による被害対応について
- ② 石巻市災害VCより～台風15号の影響による電話の不具合について～
- ③ ボランティア体験(災害)特別措置の延長について～2～
- ④ 宮城県災害ボランティアセンターの名称変更・機能拡充について
- ⑤ ボランティア車両の災害派遣等証明書発行について
- ⑥ 各災害VCの休業日・お盆休みについて

検索

団体等募集状況

◆各災害VC募集状況◆
◆旅行会社等募集状況◆

<http://msv3151.c-bosai.jp/>



eコミュニティ・プラットフォーム

ボランティア体験談のアーカイブ

失われた地域の「過去」の記憶の再生

被災した「現在」を記録

復興に向けた「未来」を記録

311 まるごとアーカイブス > 災害現象・災害対応の記録 > ボランティア体験談のアーカイブ

メニュー

- シンポジウム 2011/10/18 日本大震災の記録とその活用
- 「311 まるごとアーカイブス」とは？
- 記憶と思い出の再生
- 被災地の過去の映像の収集とデジタル化
- 津波で流されたアルバムや写真の迅速なデジタル化
- 津波被災地「思い出の品」

災害現象・災害対応の記録 現在

一ボランティア体験談のアーカイブ

活動趣意

ボランティアに参加された方々を対象に、ボランティア体験談を募集いたします。体験談は原則として一般公開し、ボランティアセンターや避難所などの設置・運営の迅速化・効率化に活用いたします。

ボランティア体験談の募集

提供・協力のおねがい

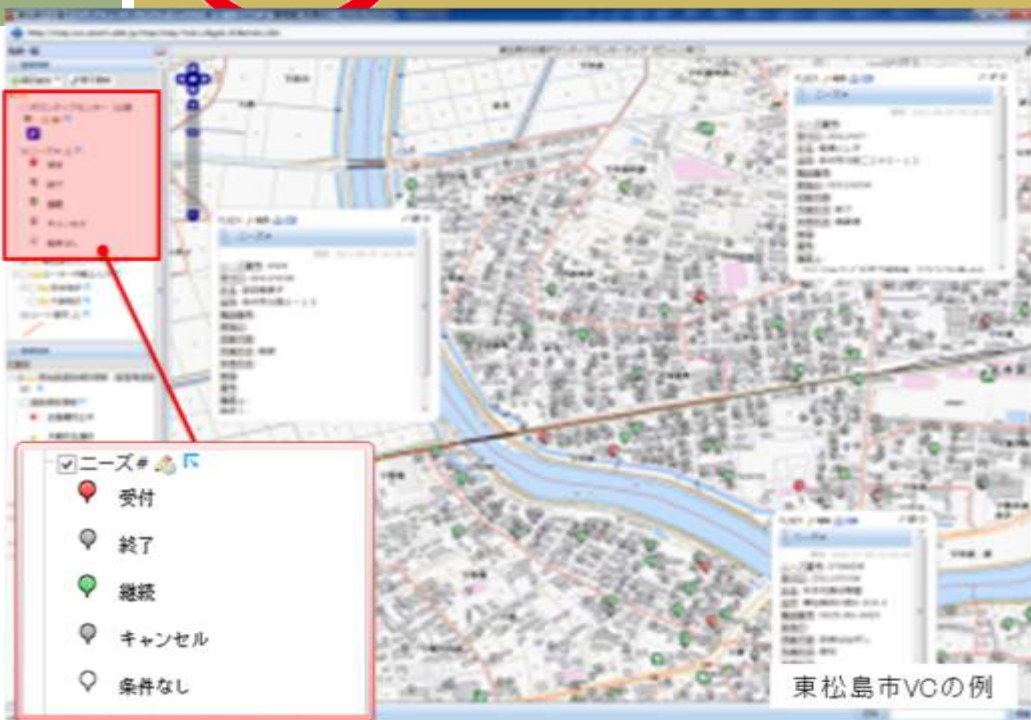
- 映像・写真などの提供をお願いします
- 寄付をお願いします
- ボランティアの募集
- ボランティア体験談募集

<http://311archives.jp/hp/genzai/volu-taikendan>

- eコミに活動内容や注意事項などを掲載、ボランティア参加を呼び掛け。
- ボランティアニーズマップや炊き出し履歴・予定マップを作成。自衛隊をはじめ、各主体とのコミュニケーションをeコミが支援
- ボランティア体験談募集ページを作成、様々なサイトにバナーを掲載し、体験談を収集



主な成果・コンテンツ



- ボランティアニーズマップなど、日々の活動で作成したデータそのものをアーカイブする。
- 体験談は311アーカイブスで募集・配信中。ボランティア受け入れ態勢作りとして事前に取り組むべき内容などが掲載。

ボランティア体験談

2011年9月06日 10時04分

今、私にできること

3月11日の震災後、自分にできる事をずっと探してきました。基金をしたり物資を送ったりもしたのですが、どうしても現地に行きたいと思い、ボランティア活動に参加させて頂きました。

実際に目にする景色は、本当に言葉にならない程でした。最初は個人のお宅の泥の掻き出しやお庭や家の中の片付けなどをさせて頂き、2回目の時は側溝の泥の掻き出しをさせて頂きました。2度目の時は7月だったこともあり、熱中症にならないようにこまめに水分補給や休憩をとりながら作業を進めました。

その際、お家の方ともお話をさせて頂く機会がありました。被災され、大変な状況であるのにもかかわらず、私たちボランティアを気遣って下さることに涙が出そうになりました。なにか皆さんの力になりたいの思いで、被災地に行ったのですが、逆に沢山の勇気や元気を頂き、復興の為にこれからも頑張ろうという思いが更に強くなりました。人生初のボランティア活動は非常に意味のある大切な経験でした。

山梨県富士吉田市 40代 女性 会社員

- ◆ボランティア活動期間 2011年5月18日、7月12日
- ◆ボランティア活動した市町村 宮城県東松島市



課題と今後の展開

<課題>

- 宮城県も広いため、各市町村で人口規模や年齢構成、被害の大きさが異なる。記録した災害ボランティア活動のデータの取りまとめ方、分析の仕方が課題。

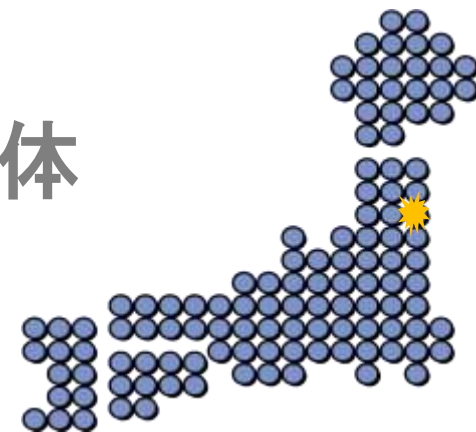
<今後の展開>

- 市町村社協への取材を中心に、災害VC運営の記録のまとめを行う。
- 災害ボランティア活動の記録における反省を踏まえ、生活支援活動の記録、整理を行っていく。



地場産業の復興アーカイブと 民間コマースサイトとの連携

活動地域：岩手県被災自治体





取り組みの目的

<主目的>

- 地場産業がどのように復興していくのか、その過程をアーカイブする。

<活動体制>

- 復興過程を、KOM(気仙を大いに盛り上げたい)などが、工場や商店などに復興過程をインタビューします。
インタビュー結果は、webから配信していきます。

<副次的な効果>

- 復興過程を取材・配信・アーカイブすることによって、消費者が被災地の地場産業の商品を安心して購入できる、その他、支援ができる環境をつくれます。被災地の地場産業の商品購入を促していきます。



取り組みの概要

地元商店工場へ訪問



復興過程のインタビュー



商品の紹介

KOMによる
インタビュー、
WEB紹介



復興過程のインタビュー
陸前高田市 八木澤商店さん

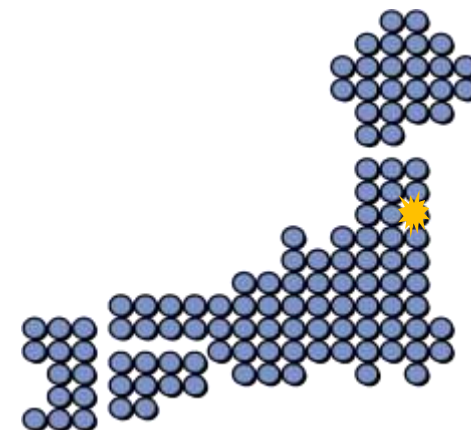
復興過程をWEBで紹介



測量車両による360度映像と測量のアーカイブ

測量車両による360度 映像と測量のアーカイブ

活動地域：陸前高田市





取り組みの目的

<目的>

- 車両に360度カメラとGPSを搭載し被災地の映像を撮影、復興前の様子を撮影するとともに、津波の痕跡の広域データとして、津波研究などで活用する。

<体制>

- NTT空間情報(株)と協力して実施。

<活動状況>

- 陸前高田市など市内を走破
- データの編集作業を実施中



活動の様子

《高精度位置情報と画像を同時取得》

撮影画像の位置情報
(X,Y,Z)を同時に取得
(誤差:数センチ)



測量が可能

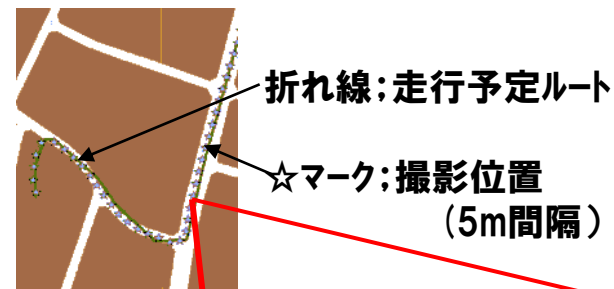
- ・電柱、MH位置、ケーブル高
- ・道路幅、傾斜、標識等



電子地図上へ反映
(図化、修正)



【目標物の位置算出法】



目標物位置ポインティング+GPS⇒緯度経度高度



(1階)



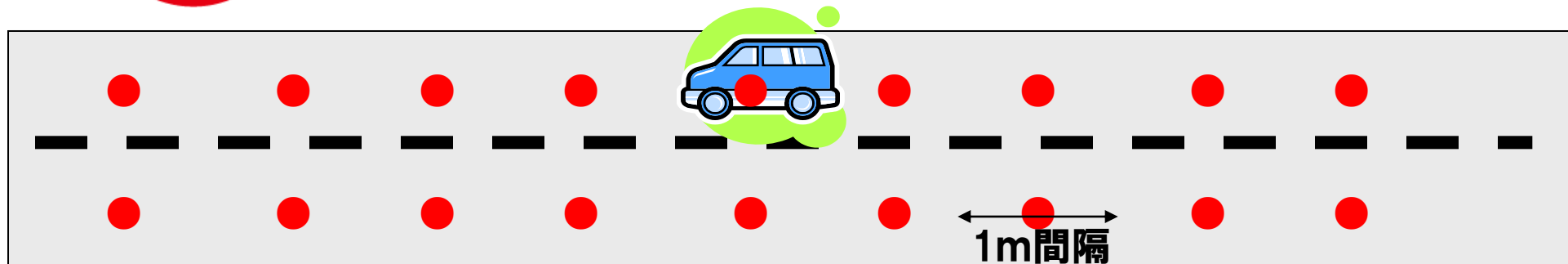
(5階)



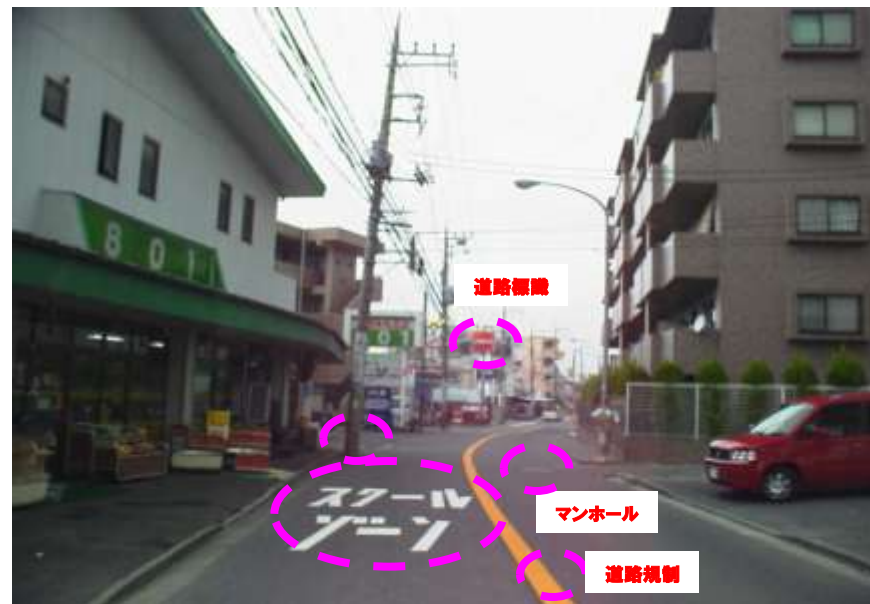
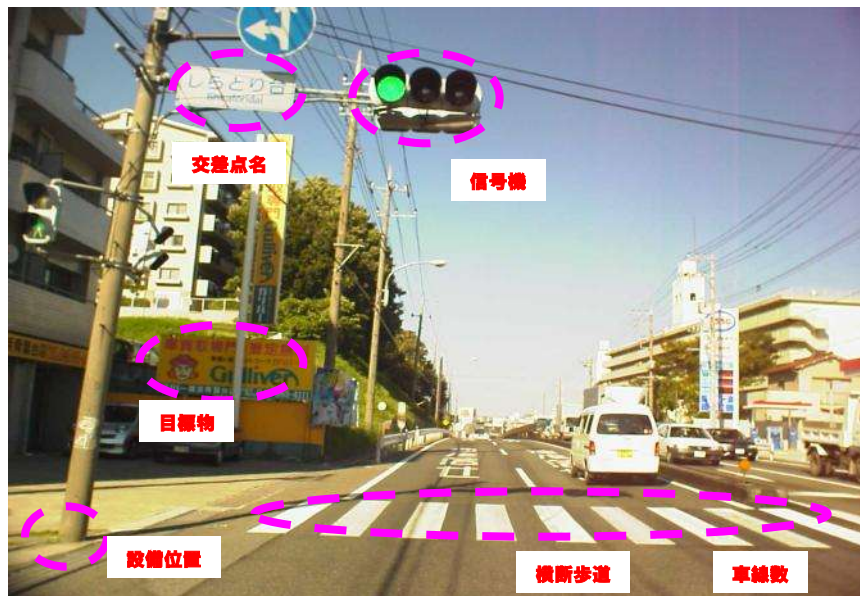
(動画記録)



主な仕組み



緯度・経度・標高とカメラ画像



地図コンテンツの整備・設備位置の計測など様々なコンテンツ収集



主な成果・コンテンツ

被災後 走行軌跡
(被災後航空写真+家形番地)



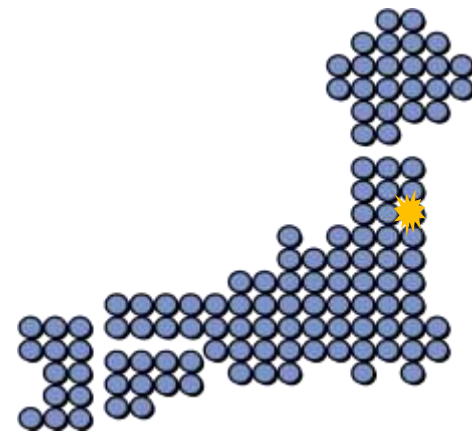
被災前 走行軌跡
(被災前航空写真)





復興情報杭とスマートフォン等による 復興過程の定点撮影と フィールドミュージアム構想

活動地域：大船渡市





取り組みの目的

<目的>

- 復興の過程を定点観測する。
- 観測したデータ(復興過程の写真や動画)、及び被災前写真、復興後の将来像などを定点観測地点で閲覧できる環境を整備し、市全体を「フィールドミュージアム」化する。
- 観光客などの「被災地内外」、及び世代を超えた「世代間」の交流を促進する。

<活動状況>

- 被災直後に撮影を実施、被災前の写真・動画の提供呼び掛け
- 8月末に復興情報杭第1号を設置。



活動の様子



スマートフォンを使った
フィールドミュージアム



主な成果・コンテンツ



RFID利用型「定点撮影補助アプリ」画面
(東京大学・岩井助教開発案)



課題と今後の展開

<課題>

- 復興杭の設置場所、民間からの依頼の統一化
- ICタグへの対応(携帯電話やスマートフォンがICタグに対応していない⇒現時点ではQRコードで代用)

<今後の展開>

- 1,000本を目指す。
- 気仙沼市、陸前高田市などでも展開したい。
- 観光や修学旅行の目玉になるように展開したい。

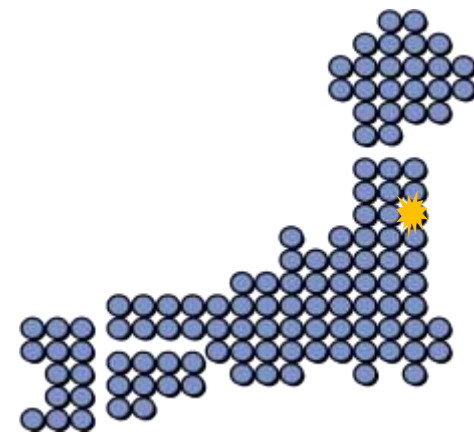
その他



3.11まるごとアーカイブス・シンポジウム 東日本大震災の記録とその活用

在福島民放テレビ局 フィルム素材の救済

東京大学情報学環





課題と今後の展開

在福島民放テレビ局、開局以来のフィルム素材が津波の被災にあい、専用の保管倉庫から本社社屋に一時避難している状態にある。

- ・その数は、約2,000タイトルである。
- ・地元福島民放テレビ局が撮影した、1963年から1983年まで、約20年間の福島の記録は貴重な映像史料である。
- ・ビデオ原版化が済んだ映像についても、オリジナルであるフィルムの保管は必須である。
- ・フィルムの保存には、温度、湿度管理が不可欠であり、一度劣化したフィルムは二度と元には戻らない。
- ・現状の保管環境では、早晚フィルムの劣化が予測される。
- ・恒久的な保管環境整備には時間がかかるとしても一刻も早い、フィルム専用倉庫への緊急避難が望まれる。
- ・また同局は、これらの映像が公的な目的に於いて利用に供されることについて深く理解を持つ。
- ・上記状況を踏まえ、以下のとおり段階的な保存、活用への取り組みを実行したい。
 1. フィルム専用倉庫への緊急避難。
 2. アーカイブ化のためのデータ整備(映像データ、メタデータ)
 3. フィルムの恒久保存及びアーカイブ公開。

WEBサイト <http://311archives.jp/>

e コミュニティ・プラットフォーム

ユーザー登録 - ログイン

311 まるごとアーカイブス



失われた地域の「過去」の記憶の再生



被災した「現在」を記録



復興に向けた「未来」を記録

311 まるごとアーカイブス

メニュー

 311 まるごと
アーカイブス とは？

記憶と思い出の再生 **過去**

被災地の過去の映像の収集と
デジタル化

津波で流されたアルバムや写
真の返還とデジタル化
→ 陸前高田市「思い出の品」
返却活動

災害現象・災害対応の記録 **現在**

津波映像や避難行動の写真等
の収集と公開

311 まるごとアーカイブス 趣意書

3月11日に発生した東日本大震災は、多くの人命を奪い、地域社会に壊滅的な被害を与えました。この経験や教訓を人類共通の資産として千年先の後世に伝承し、安全な社会を構築することが現世代の責任です。

そこで、被災地の失われた「過去」の記憶をデジタルで再生し、被災した「現在」と復興に向けた「未来」の映像や資料をデジタルで記録しまるごとアーカイブすることを目的として、「東日本大震災・災害復興まるごとデジタルアーカイブス」(プロジェクト略称:311 まるごとアーカイブス)を発足しました。

詳細は趣意書(PDF)と、「311 まるごとアーカイブスとは」をご覧ください。

各地域の取組 新着情報

☞ 三陸海の盆「送り火」

提供・協力をお願いします

 映像・写真などの
提供をお願いします

 寄付のお願い

 ボランティアの募集

お問い合わせ・データ提供等

 お問い合わせ
データ提供・寄付等

8月29日 14時49分



アーカイブしたデータの活用(例)

※第2部にて検討いたします

活用①

- ・小中学校での地域学習の教材
- ・郷土史

活用②

- ・観光スポットとして
- ・修学旅行の訪問地として

活用③

- ・地域コミュニティの再生で活用

(仮称)地域発 311防災図鑑



被災地と世界
をつなぐ

活用④

- ・継続的な被災地の支援に向けて

活用⑤

- ・展示会などのチャリティーイベント開催

活用⑥

- ・防災学習や防災体制の見直しに向けて

